

問1 11世紀後半に白河天皇が始めた「院政」という政治体制の説明として、当時の状況を踏まえたものとして最も適切なものはどれですか。（2019年 新潟県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 天皇が位を譲って上皇となったあと、役所（院）を置いて政治の実権を握り続ける仕組み | 2. 藤原氏が娘を天皇のきさきにし、その子を天皇に立てて外戚として政治を行う仕組み | 3. 地方の武士団が結集し、朝廷の命令を受けずに独自の領地支配を認める仕組み | 4. 中国の唐の制度にならい、律令に基づいて天皇が直接全国の土地と民を支配する仕組み |
|---|---|--|--|

問2 939年に瀬戸内海を中心に発生した藤原純友の乱について、この出来事が日本の歴史において果たした役割や背景として最も適切な説明はどれですか。（2019年 香川公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 朝廷の地方統治に対する有力者の不満が噴出し、武士が軍事力を背景に政治を動かす勢力として成長していることを示した。 | 2. 元寇による防衛費の負担に耐えかねた西国の武士たちが、幕府を倒すために団結して起こした。 | 3. 天皇中心の律令政治を復活させるため、地方の豪族が協力して貴族の勢力を排除しようとした。 | 4. キリスト教の布教を禁止した江戸幕府に対し、九州や瀬戸内海の信者が一斉に蜂起した。 |
|---|--|--|---|

問3 平清盛は、娘の徳子を高倉天皇に嫁がせ、その間に生まれた子供を天皇として即位させることで権力を確立しました。この時、清盛が「外戚」という立場で後見した天皇は誰ですか。（2021年 福岡県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|----------|---------|---------|
| 1. 安徳天皇 | 2. 後醍醐天皇 | 3. 白河天皇 | 4. 崇徳天皇 |
|---------|----------|---------|---------|

問4 平安時代後期、藤原氏を外戚に持たない後三条天皇が即位したことで、摂関政治の力が衰え始めました。その後、1086年に位を譲って退位した後も「上皇」として政治の実権を握り続けた人物は誰か、次の中から選びなさい。（2023年 香川公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 白河天皇 | 2. 聖武天皇 | 3. 桓武天皇 | 4. 明治天皇 |
|---------|---------|---------|---------|

問5 日本の古代文学における表記方法の変化について述べた文として、正しいものはどれですか。なお、奈良時代に編纂された歌集を『万葉集』、平安時代初期に編纂された歌集を『古今和歌集』とします。（2019年 長野県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 万葉集では漢字のみを用いて和歌が綴られているが、古今和歌集では日本独自の文字であるかな文字が用いられている。 | 2. 万葉集ではかな文字を用いて和歌が綴られているが、古今和歌集ではすべての和歌が万葉仮名のみで記されている。 | 3. 万葉集と古今和歌集はどちらも、中国の漢字を本来の意味でのみ使用して、日本語の音を表現しようとした。 | 4. 万葉集は漢詩のみを収録した作品集であり、古今和歌集から初めて日本語の音を書き写す試みが始まった。 |
|---|---|--|---|

問6 平安時代、藤原氏が天皇の幼少期には「摂政」、成人後には「関白」という職に就き、政治の実権を握った政治体制を何と呼びますか。（2023年 岩手県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|-------|---------|-------|
| 1. 摂関政治 | 2. 院政 | 3. 執権政治 | 4. 親政 |
|---------|-------|---------|-------|

問7 東北地方の歴史について述べた次の文のうち、当時の状況を正しく説明しているものはどれですか。かつて朝廷軍を打ち破ったこともある蝦夷のリーダーと、その後に派遣された政府側の人物の関係に注目して選びなさい。（2015年 佐賀公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 蝦夷の指導者であったアテルイは、朝廷から派遣された坂上田村麻呂に降伏した。 | 2. 蝦夷の指導者であったアテルイは、朝廷から派遣された源頼朝を北九州で迎え撃った。 | 3. 蝦夷の指導者であった平将門は、朝廷から派遣された坂上田村麻呂に敗北した。 | 4. 蝦夷の指導者であった足利尊氏は、朝廷から派遣されたアテルイによって捕らえられた。 |
|--|--|---|---|

問8 11世紀後半、藤原氏を母に持たない後三条天皇の即位をきっかけに、摂関家の影響力が低下しました。その後、天皇が位を譲って上皇となり、摂政や関白の力を抑えて政治の実権を握った形態を何といいますか。（2017年 沖縄公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|-------|---------|---------|
| 1. 摂関政治 | 2. 院政 | 3. 武家政治 | 4. 執権政治 |
|---------|-------|---------|---------|

問9 平安時代初期、現在の東北地方に居住し、朝廷の支配が十分に及んでいなかった人々を指す名称として正しいものはどれですか。（2020年 島根公立入試 類似）

- | | | | |
|-------|--------|--------|-------|
| 1. 蝦夷 | 2. 渡来人 | 3. 南蛮人 | 4. 隼人 |
|-------|--------|--------|-------|

問10 平安時代、天皇が幼少のときや女性である場合に、天皇に代わって政治の全権を担った役職は何ですか。（2017年 大阪公立入試 類似）

- | | | | |
|-------|-------|-------|---------|
| 1. 摂政 | 2. 関白 | 3. 執権 | 4. 太政大臣 |
|-------|-------|-------|---------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 天皇が位を譲って上皇となったあとも、役所（院）を置いて政治の実権を握り続ける仕組み	平安時代中期まで続いた藤原氏による摂関政治は、天皇の母方の親戚（外戚）という立場を利用したものでした。11世紀後半、藤原氏を外戚に持たない後三条天皇のあとに即位した白河天皇は、譲位して上皇となった後も政治を司ることで、藤原氏の影響力を排除し、皇室主導の政治を取り戻そうとしました。これが院政の始まりです。
問2	答え 1 朝廷の地方統治に対する有力者の不満が噴出し、武士が軍事力を背景に政治を動かす勢力として成長していることを示した。	藤原純友の乱や平将門の乱は、中央政府である朝廷の支配力が地方まで及ばなくなり、地方の治安維持や統治を武士の実力に頼らざるを得なくなった状況を反映しています。朝廷はこれらの反乱を鎮圧するために別の武士の力を利用しました。これにより、軍事専門職としての武士の地位が確立され、後の武家政治の成立へとつながる重要な転換点となりました。
問3	答え 1 安徳天皇	平清盛は、自身の娘である徳子を天皇の后とすることに成功しました。徳子と高倉天皇の間に生まれた子が安徳天皇です。清盛は、自分の孫にあたる安徳天皇を即位させることで、天皇に近い親族（外戚）として政治に大きな影響力を及ぼしました。これにより、平氏は「平氏にあらざれば人にあらず」と言われるほどの全盛期を築くことになります。
問4	答え 1 白河天皇	後三条天皇の時代に摂関家の影響力が弱まったことを背景に、その子である白河天皇は1086年に堀河天皇へ譲位した後も「上皇」として院（住居）で政治を行いました。これが「院政」の始まりです。これにより、藤原氏が摂政や関白として権勢を振るった摂関政治から、上皇が直接主導権を握る政治へと移行しました。
問5	答え 1 万葉集では漢字のみを用いて和歌が綴られているが、古今和歌集では日本独自の文字であるかな文字が用いられている。	奈良時代の『万葉集』では、まだ日本独自の文字がなかったため、漢字を音として利用する「万葉仮名」で和歌が記録されていました。その後、平安時代に漢字を簡略化した「かな文字」が考案されたことで、平安時代初期の『古今和歌集』では、より自由で柔らかな表現が可能になりました。
問6	答え 1 摂関政治	藤原氏は自分の娘を天皇の后（きさき）とし、その子供を次の天皇に立てることで、天皇の母方の親戚（外戚）として強い権力を持ちました。天皇の成長に合わせて摂政や関白という役職を使い分け、一族で政治の中心を担ったことが特徴です。
問7	答え 1 蝦夷の指導者であったアテルイは、朝廷から派遣された坂上田村麻呂に降伏した。	東北地方に住んでいた蝦夷の人々は、アテルイという指導者のもとで一時は朝廷軍を撃退するほどの激しい抵抗を見せました。しかし、桓武天皇によって派遣された坂上田村麻呂が軍を進め、現在の岩手県に胆沢城を築くなどして支配を強めると、アテルイは最終的に坂上田村麻呂に降伏しました。
問8	答え 2 院政	平安時代中期には藤原氏が摂政・関白として権力を振るう摂関政治が行われましたが、白河上皇は天皇を退位してからも「院」として実権を持ち続けることで、藤原氏の介入を防ぎました。これが院政の始まりです。
問9	答え 1 蝦夷	律令国家の形成を進める朝廷は、現在の東北地方に住み、独自の生活様式を保っていた人々を「蝦夷（えみし）」と呼びました。朝廷は彼らを支配下に置くため、軍事的な征服や、城柵と呼ばれる拠点の構築を長年にわたって進めました。
問10	答え 1 摂政	天皇の代理として政治を行う役職であり、平安時代には藤原氏がこの職を独占しました。天皇が成人した後にその相談役として置かれる「関白」と合わせて、藤原氏による政治体制を支える重要な柱となりました。鎌倉時代に幕府の実権を握った「執権」とは、その役割や時代背景が異なります。